

【週刊タバコの正体】

Vol.47 第7話～第10話

2020年10月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 47

(No. 639) 第7話 ONE PIECE

ーアニメ「ONE PIECE」の原作と海外版ではタバコの扱いが違う...

アニメ「ONE PIECE」のシーンですが、よく見てください。サンジが指にはさんでいるのはタバコのはずなのに、右側はチュッパチャップスになっていますよね。

じつは、左が日本の原作ですが、右は海外版なのです。同様に下のシーンでも左の原作で描かれている葉巻が右の海外版では消えています。

(No. 640) 第8話 まずは禁煙から

ー歌丸さんの写真を見てCOPDという病気を知ってもらいたい...

息を吸っているのに入ってこない」病気はCOPD（慢性まんせい閉塞性へいそくせい肺はい疾患しっかん）と呼ばれます。長年喫煙を続けた人の多くが、この病気にかかります。タバコで傷めつけられた肺は、十分な酸素を取り込めなくなるからです。

息ができない苦しさを想像してみてください、恐ろしいですよ。そんな目に合わないよう「まずは禁煙から」というポスターです。

(No. 641) 第9話 肺機能の低下

ー60歳代でCOPDになるのはいかにももったいない...

タバコを吸い続けると肺機能が低下していきます。進行するとCOPD（慢性まんせい閉塞性へいそくせい肺はい疾患しっかん）となり、息を吸っているのに酸素が入ってこない状態となります。しかし低下する速度はゆっくりなので、はっきり息苦しさをを感じるまで気が付きません。

そこで、その早期発見のために使われるのが下図にあるスパイロメータという装置で、吸い込んだ息を吐き出す量を計測できます。その量は年齢とともに低下しますが、その様子を示した下のグラフを見てください。喫煙しない人は60歳を過ぎてもあまり低下していないのに対し、タバコを吸い続けると25歳をピークに確実に低下し始め65歳ごろには呼吸困難な状態になり、75歳までに死亡する確率が高くなっています。

(No. 642) 第10話 吸いません

ー煙が見えないサードHANDSモーク...

喫煙者の多くは、タバコは健康に良くない事は知ってながら、ニコチン依存症のために、毎日どこかで吸い続けています。現代は、有害なタバコから人々の健康を守るための法律や条例ができていますので、喫煙者は他人にタバコの被害が及ばない「どこか」で吸わなければなりません。

ほとんどの場合、被害とは喫煙者のタバコを吸わされてしまう“受動喫煙”の事を指します。だから、左のポスターのように、煙がもれない喫煙室でタバコを吸うのが当たり前になっているので、受動喫煙は防がれているように思えます。

ところが、喫煙室から出てきた喫煙者にはタバコのニオイととも有害物質が付着しています。すると、周りの人はそのニオイを嗅がされてしまうのです。この状態は、“三次喫煙”もしくは“残留受動喫煙”または“サードHANDSモーク”と呼ばれます。

Volume 47 Serial number 639 第7話
週刊 タバコの正体



アニメ「ONE PIECE」のシーンですが、よく見て下さい。サンジが指にはさんでいるのはタバコのはずなのに、右側はチュッパチャップスになっていますよね。

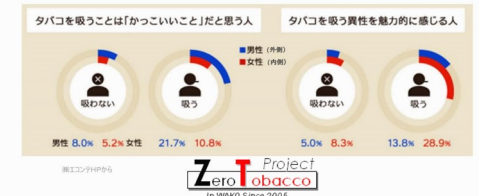
じつは、左が日本の原作ですが、右は海外版なのです。同様に下のシーンでも左の原作で描かれている葉巻が右の海外版では消えています。

その理由は、子どもに喫煙シーンを見せないよう規制している国があるからです。

昔から映画、ドラマ、アニメのヒーローがタバコを吸うシーンは「カッコよく」描かれてきました。そのおかげで、人々はそんな姿にあぐらされてタバコを吸い始めてしまう傾向が強かったのです。しかし、前述のアニメの例のようにタバコの有害性が明らかになるにつれ、そんなシーンは減り、今ではほとんど目にすることはなくなりました。

そんなことも影響してか、2014年3月～4月、男性3225人女性3225人(合計6450人)対象に行われた調査によると、下図のようにタバコを吸うのは「カッコいい」と思う人は大きく少なくなりました。現代は人前から遠く離れた目立たない喫煙場所しか吸えない時代です。そんなところで吸って「カッコいい」と思えるはずはないですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久



Volume 47 Serial number 642 第10話
週刊 タバコの正体



喫煙者の多くは、タバコは健康に良くない事は知っていても、ニコチン依存症のために、毎日どこかで吸い続けています。現代は、有害なタバコから人々の健康を守るための法律や条例ができていますので、喫煙者は他人にタバコの被害が及ばない「どこか」で吸わなければなりません。

ほとんどの場合、被害とは喫煙者のタバコを吸わされてしまう“受動喫煙”の事を指します。だから、左のポスターのように、煙がもれない喫煙室でタバコを吸うのが当たり前になっているので、受動喫煙は防がれているように思えます。

ところが、喫煙室から出てきた喫煙者にはタバコのニオイととも有害物質が付着しています。すると、周りの人はそのニオイを嗅がされてしまうのです。この状態は、“三次喫煙”もしくは“残留受動喫煙”または“サードHANDSモーク”と呼ばれます。

つまり、煙がもれない喫煙室でタバコを吸ったところで、完全に受動喫煙を防げません。となると、「すみません」じゃなくて「吸いません」と言える人は今の社会になつてくれる事を願いたいものです。

産業デザイン科 奥田 恭久



毎週火曜日発行

URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

